

Joyama

通信 Joyama News

福岡教育大学広報誌

University of Teacher Education Fukuoka Campus Magazine

vol.

36

2016 Summer

特集1

全国初の新指導体制

教職教育院

特集2

九州唯一の国立教員養成系単科大学に設置された

教育総合研究所



国立大学法人

福岡教育大学

教職教育院

vol.
36

CONTENTS

- 02 特集1
教職教育院
- 06 特集2
教育総合研究所
- 10 福教大NEWS
- 12 授業紹介
選修小専社会(小田泰司教授)
英語教育ゼミC(宮迫靖静准教授)
- 14 研究室紹介
教職教育院 生田 淳一 研究室
- 15 サークル紹介
準硬式野球部
サマーキャンプ
- 16 社会連携 連載第14回
- 20 福教大卒OB・OG
太宰府市立太宰府西小学校教諭
井上 裕子さん
広島市立矢野中学校教諭
石堂 萌子さん
- 22 TOPICS
平成28年熊本地震について
表紙モデルの福教大生☆
- 23 キャンパスからの便り

教職教育院長からのメッセージ

平成28年度を迎えるにあたり、本学は、入試・カリキュラム・正課外活動の支援の充実等、包括的な改革を実行しました。入学後に行った調査によれば、入学者の98%が教職に就く高い志をもっていることがわかり、改革の手応えを実感するとともに、学生の皆さんからの期待により一層応えていきたいという思いを新たにしています。

教職教育院では、クラス担任制を取り入れ、入学時から卒業・就職まで、一貫した指導を行います。この指導体制の下、各課程が目指す教員になるための学びを深めてください。加えて、英語習得院での話せる英語力の強化とボランティア活動への積極的参加による人間性・実践力の錬磨により、これからの社会で求められる教員としての資質能力を培っていただきたいと思います。

教職教育院長 ^{てら お} 寺尾 ^{しん いち} 慎一



平成28年度入試の成果

—入試改革・高い教員志望率—

本年度の新入生は、新しい入試方法で選ばれた学生です。初等教育教員養成課程では、従来は主として勉強する教科ごとに入学試験を行っていましたが、大括り化をして初等全体で行う入学試験に変えました。中等教育教員養成課程では、教科に関する試験科目は残しましたが、教員になる意欲や資質を問う「課程共通の小論文」を導入しました。特別支援教育教員養成課程では、従来は入学後に決めていた初等と中等の基礎免許状の区別を、入学試験の段階から分けて入学試験を実施しました。いずれの変更も、教員を強く志望している学生に入学していただきたいという理由からです。

その結果、入学直後に行った進路調査では、98%の学生が「卒業後は教職を志望する」と回答しています。従来は約8割の学生が、同種の調査で教員志望を回答していたので、入試改革の目的はひとまず合格点といったところです。あとは、私たち教職教育院の教員が学生たちの志を受け止め、将来、教壇に立つという夢の実現に向けて、強力に後押ししたいと思います。

教育課程の特徴

義務教育諸学校の教員養成機能における広域の拠点的役割を担うことをミッションに掲げて、これからの各県・地域の学校教育を担う、資質・能力の高い教員を養成するために、本学では新たなカリキュラムを発足させました。

その特徴を端的に表現すれば、課程ごとに養成する教員像(人材像)を明確にしたカリキュラムの編成、と言うことができます。このたび再編された初等教育教員養成課程、中等教育教員養成課程、特別支援教育教員養成課程では、学校種に応じて免許法上必要な各教科等の指導はもちろんのこと、学級経営、生徒指導を行うために必要な基礎的・基盤的な資質・能力を確実に身につけることができます。その上で、これからの学校教育の動向や諸課題に即応できる力を養うための実践的な授業科目が開設され、これらの授業科目の運営については教職教育院に所属する教員が講座を越えた協働体制の下に深く関わってゆきます。

さらに、これらのカリキュラムを下支えているのが、英語習得院での英語学習や、学校支援ボランティア活動など、学生の主体性に基づく課外の活動です。これらの学修機会を一人ひとりの人生コースに位置づけて、豊かな教職生活に向けてのスタートを切ってほしいと願っています。

授業紹介

フレッシュマン セミナー



大学で学ぶために必要な知識や「問いを立てる、調べる、記録する、まとめる、発表する、話し合う」といった基本的なアカデミック・スキルを修得するとともに、福岡教育大学で学ぶ意義を考え、教職に向けての意欲を高めることを目標としています。

国語科 指導法



小学校における国語の授業方法について、優れた授業実践に学び、国語の授業を構想する力量を身につけます。国語科教育の目的と内容について体系的に理解するとともに、教材分析の方法や指導案の書き方についても学びます。

家庭科 指導法



小学校家庭科の目標や内容構成、学習方法に関する基本的事項について学修します。講義の他、実習やグループ活動、模擬授業を通して、家庭科の基礎的な授業実践力を養います。

小専音楽



小学校教員に求められる音楽に関する基礎知識と基礎的演奏力を身につけます。音楽科の授業における表現及び鑑賞の指導の実践に関する有用な理論的知識と実技力の定着を図ります。

教職教育院 教員からの ひとこと

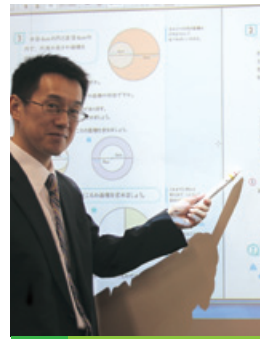


私は、本学で数学教育の授業を担当しています。前期には例えば1年生の「小専算数」という授業を担当しています。受講生の皆さんのほとんど全員が教員志望ということもあって、熱心に授業を受けてくれているように感じます。

さて、学生の皆さんは、小学校入学から今日まで、「学習する」立場で授業を受けてきています。もちろん大学の授業でもそれは同じなのですが、本学の学生の皆さんは、将来教員を目指しているわけなので、「子供に指導する」という心構えで、算数なら算数を見つめ直すことが大切です。

このとき、教科書の問題が解けるだけでは、誤解を恐れずいえば小学生レベルともいえます。文部科学省が定めている「学習指導要領」の目標や各学年での指導の内容やその系統性を確実に理解した上で、教科書の意図するところを読み取る力が必要です。例えば、小学校6年生で $3/4 \div 2/5$ を学習します。「 $3/4 \times 5/2$ と計算すればよい」という教え方ならば、大学で勉強した先生に教わるほどのことはないでしょう。そもそもなぜ「 $3/4 \div 2/5$ 」というわり算を「 $3/4 \times 5/2$ 」というかけ算にしてしまっただけなのでしょう。子供自身がそれまで学習したことを活用して、このことを考えていくような授業でなければなりません。そうした授業を通して、小学生がこの計算の仕方を「便利だな」「不思議だな」と思えるような授業を展開できてこそ、一人前の教師といえると思います。

「小専算数」だけでなく他の授業や教育実習を通して、学生の皆さんが、算数科や数学科の授業をよりよく展開できるようになるための知識や方法を修得できるよう努めていきます。日本の教育をより充実したものとするために一緒にがんばりましょう。



副学長(教育研究高度化担当)
教職教育院・数学教育講座 教授

しみず のりひろ
清水 紀宏



教職教育院・音楽教育講座 教授

にのみや つよし
二宮 毅

この春より、初等教育教員養成課程の学籍番号が最初(末尾01番)から14名による第1ルームの担任を務めています。第2ルームの13名と併せた1Aクラスの「フレッシュマン・セミナー」を担当し様々な活動を展開していますが、従来の選修制とはまた異なる将来性を、学生たちから早くも強く感じています。では、何が大きく異なるのでしょうか。それは、ルームやクラスの中に様々な得意分野を持った学生が混在していることで、多様な学習局面において、その都度リーダーたり得る人材が身近にいる環境を、すでに学生たちが得ていることです。昨今注目されているアクティブ・ラーニングの環境が、すでに学生のまわりに成り立っているといえます。このことは、傾向が似通ったグループとなりがちな選修制の弱点を解消しており、うまく機能させることで集団における協調性や相互理解を深め、バランス感覚に優れた人材育成が大いに適うものと思われれます。個性のぶつかり合いのような教室の中に身を置く時間は、私にとっても極めて新鮮で、大学生の新たな側面をいくつも発見する日々です。



フレッシュマンセミナーの様子

学生からの ひとこと



新入生は、いきいきと学生生活をスタートさせています。勉強だけでなく、ボランティア活動などにも積極的にかかわっているようです。学生の声を聞いてみましたので、その一部を紹介します。



ボランティア参加者募集の掲示を見て、5月に早速参加してきました。本学の学生だけでなく、さまざまな所属・年齢の参加者が集まりました。参加者同士とも、ボランティア先の子どもたちとも初対面なので、人見知りという自分の弱点を克服するいいチャンスだと思いました。このような機会をいただいていますので、今後もボランティア活動にしっかり取り組んでいきたいと思っています。

初等教育教員養成課程 たかだ ほのの 高田 穂々乃さん
(出身高校：佐賀県立小城高等学校)

教科の指導法に関する授業を受けてみて、さまざまなことに気づきました。例えば、各教科には明確な目標がありその目標に向かって授業を展開しなければならないこと、子供の気持ちを理解して授業計画を立てることの大変さや先生方が1回の授業をするのにどれだけ努力されているかを考えながら学んでいます。私には憧れている先生がいますが、いつかその先生のようになれるように努力したいです。

初等教育教員養成課程 せき かすみ 関 香澄さん
(出身高校：福岡大学附属若葉高等学校)



福岡教育大学に入学して、教科の指導法や教材研究など今まで興味があった教育に関する勉強ができて、わくわくするし、楽しいです。これから、授業以外の教職イベントやボランティアにも積極的に参加し、教師を目指して頑張っていきたいと思っています。

初等教育教員養成課程 しやく まどか 釋 円佳さん
(出身高校：佐賀清和高等学校)



数学を学ぶのも教えるのも好きで、数学の教師になろうと思い、九州で唯一の教員養成大学である福岡教育大学に入学しました。大学レベルの数学は難しい内容も多いですが、学ぶ楽しさも感じています。今は、勉強とフットサルサークルでの活動が中心ですが、ボランティアに参加したり、旅行に行くことを通じて見聞を広めたいと思います。将来的には地元の沖縄に帰って、教員として頑張りたいと考えています。

中等教育教員養成課程 こ じゃ まさ ちか 古謝 将允さん
(出身高校：沖縄県立那覇高等学校)



まだ、スタートして4ヶ月ほどですが、本学の充実した学習の場で、しっかり夢に向かって学んでいる様子がうかがえます。教員一同、4年間での成長を楽しみにしています。また、学生の期待にしっかりと応えていかなければと考えています。



特集 2 九州で唯一の国立教員養成系単科大学に設置された 教育総合研究所

福岡教育大学は、九州で唯一の国立教員養成系単科大学であり、九州における教員養成の拠点大学として、確かな指導力と豊かな人間性を合わせもった教育者の養成を目的に掲げています。

特に小学校・中学校・特別支援学校の教員を養成するための広域の拠点的役割を目指すことを基本的な目標として、実践型教員養成機能への質的転換を図り、我が国の学校教育の質の向上に貢献することをめざしています。

教員は先生になったところがゴール…ではありません。教員になったあとも、子どもや地域の実態や社会の要請に応えるために、学び続けることが必要です。

こうした「実践的な教員養成」「現職教員の研修」のあり方をはじめ、種々の研究プロジェクトを企画・立案し、進めていくことを使命として「教育総合研究所」が設置されています。

○ 教育総合研究所設置の経緯と目的

教員養成に関する研究推進の機能強化を図るために、教育に関する理論、実践及び学際的研究並びに指導を行うことを目的とした「教育実践総合センター」と、障害者に関する研究成果を臨床教育の実践に役立てることを目的とした「特別支援教育センター」を統合し、平成24年11月に教育総合研究所が設置されました。この統合には、次のねらいがありました。

- これまで個々に対処してきた教育実習や、地域との連携・学内連携事業などに共同でアプローチすることを容易にする。
- 教員養成機能の充実、学内外の今日的な教育課題や重点・融合領域の課題等に関する研究の推進、現職教員の再教育・継続教育（研修）への貢献や地域の教育・文化の発展への貢献などの機能強化を目指す。

○ これまでの取り組み

5つの研究部門を立ち上げ、学内公募により、平成24～25年度は10件、平成26～27年度は7件と、2年間のスパンの研究プロジェクトを2サイクル実施してきました。

- ◆教育実践研究部門…教育実習や教員の発達過程、学校の経営等に関する実践的研究及び現職教員の再教育・継続教育（研修）支援等の推進
- ◆人権・同和教育研究部門…人権・同和教育に関する研究の推進
- ◆高等教育研究部門…教養教育やFDを含む高等教育に関する研究の推進
- ◆特別支援教育研究部門…特別支援教育に関する研究の推進
- ◆重点・融合領域研究部門…今日的な教育課題や地域課題の解決に資する研究、重点領域・融合領域に関する研究の推進

平成28年度から、以下の部門を設置し、研究を進めていきます。

- ◆九州教育研究連携・共同部門



平成27年度研究プロジェクトの成果報告会の様子

○平成28年度からの取り組みの方針

よりよい教員を育てていくために =連携の強化=

国の教育施策を学校教育の現場に的確に反映させることができる教育の内容や方法、そのために必要な教員養成のあり方や教員に必要な資質等を明らかにし、教員養成機能における九州の広域拠点大学にふさわしい研究プロジェクトを進めていきたいと考えています。

そのため、これまで行ってきたような個別の研究プロジェクトのみならず、九州各県の教育委員会や他大学など、教育関係機関と連携した研究プロジェクトを立ち上げていきます。このために、本年度から、教育総合研究所に専任教員を配置しています。

社会の要請により強く応えるために =研究目的の明確化=

研究プロジェクトを吟味・精選して、研究目的を明確なものにしていきます。学習指導要領の改訂を見据えた教育の質の向上や学力向上に関するもの、教員養成教育の在り方を刷新するためのもの、いじめの防止・根絶など、学校現場の期待と課題解決に資するものの3つに類別・整理して、研究プロジェクトを走らせます。



○構想している研究プロジェクト

学校現場の期待と課題解決に資する研究プロジェクトをダイナミックに進めます。

「教師力の向上」にかかわる研究プロジェクト

文部科学省委託事業

今後の九州地域を支える子供の育成に向けて、「教員養成の各段階において、身につけておかなければならない資質・能力は何か」「現職教員として、若手・中堅・指導者・管理職と、各ステージで身につけておかなければならない資質・能力は何か」を研究し、それをもとに「それらを育成するために必要なカリキュラムはどうあるべきか」「現職教員の研修体系はどうあるべきか」ということを明らかにして、実践に結び付けられるような研究プロジェクトを進めていきます。

これに関わり、本学では文部科学省の委託事業「総合的な教師力向上のための調査研究事業」に応募し、採択されています。本年度はこの事業を中心に据え、教育委員会や他大学との連携を図り、教員育成指標モデルの作成、および教員育成指標モデルに基づく教員養成カリキュラムの改善に関する調査研究を進めていきます。

学力の向上に関する研究プロジェクト

文部科学省委託事業

九州各県の児童生徒の学力の実態に基づいて、学力向上に関する研究プロジェクトを計画しています。これに関係して本学では、文部科学省の委託事業「学力調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究」に応募し、採択されています。

いじめの防止・根絶に向けた研究プロジェクト

教員養成4大学協働による文部科学省認定プロジェクト

昨年度(平成27年度)より、いじめ問題に関して特色ある取組を行っている4大学(宮城教育大学、上越教育大学、鳴門教育大学及び福岡教育大学)によって、協働参加型プロジェクト「BPプロジェクト(いじめ防止支援プロジェクト)」として進めてきています。



いじめBPプロジェクトホームページ
<http://bp.fukuoka-edu.ac.jp/>

○ 教育総合研究所から皆様へ

ご挨拶



しみず のり ひろ
副学長(教育研究高度化担当)
所長 **清水 紀宏** 教職教育院・数学教育講座 教授

大学の役割は、教育、研究、社会貢献という3つの側面から特徴づけられます。種々の研究成果を挙げることで自体に価値はありますが、教員養成単科大学としては得られた研究成果を学生の教育や、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等の教育に還元することが必要不可欠です。

本学には、教育学、心理学、教科教育学、教科専門等の研究者が多数在籍しています。かつての本学では、研究や社会貢献活動について、研究者個人によるものが主たるものだったことは否めませんでした。しかし、今回の記事でも紹介した通り、第2期中期目標計画期間に「教育総合研究所」をはじめとする研究組織を立ち上げ、プロジェクト形式による共同研究が数多くなされ、一定の成果を挙げてきました。

平成28年度からの第3期中期目標計画期間においては、本研究所の機能をさらに強化し、いじめの防止・根絶など学校現場の期待と課題解決に資するプロジェクト、教育の質の向上や学力向上に関するプロジェクト、教員養成教育の在り方を刷新するためのプロジェクト等の国及び地域の教育力向上に資する研究プロジェクトを強力に推進します。そして、これらのプロジェクトはその重要性・重大性に鑑み、九州地区の他大学や福岡県教育委員会をはじめとする九州地区の教育委員会と共同して推進していく必要があります。

今後は、本研究所のプロジェクトを着実に推進することで、国との協議で再定義された「義務教育諸学校に関する教員養成機能における九州地域の拠点的役割を担う」という本学のミッション(国民の皆様との契約)の一部を果たしていく所存です。

関係各位におかれましては、ご指導ご支援の程何とぞよろしくお願い申し上げます。

教育総合研究所のこれまでの取り組みについて



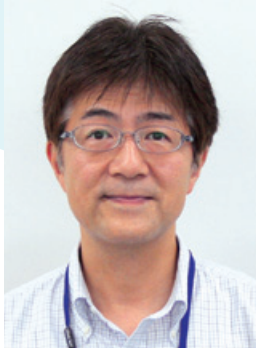
おお つか やす なお
副所長 **大坪 靖直** 教職教育院・教育心理学講座 教授

今日的な教育課題を解決するためには、多くの場合、複数の学問領域の専門家がチームを組んで、新しい枠組みで研究をすることが求められます。教育総合研究所では、専門家チームによる教育に関する研究基盤を構築して、九州唯一の国立教員養成単科大学として、それらの課題解決に貢献することを目指してきました。

過去4年間において、合計17の研究プロジェクトを立ち上げ、それぞれの教育課題に対する解決策などを提案しています。その1つに、私が研究代表者を務めた「年齢構成の急変に対応する新しい教員研修プログラムの開発と教員養成科目の開発」があります。このプロジェクトは、平成24年度に本研究所で立ち上げ、平成25-27年度の文部科学省概算要求(プロジェクト分)で研究支援を受けました。本研究所の客員教授の先生方と共同して、約10年間で半数近くの小中高の先生方が退職され、新任の先生方に入れ替わると予想される福岡県(福岡市と北九州市を含む)の現状を踏まえ、教員研修の内容や体系の変更に備えるとともに、本学のカリキュラム改善にも寄与することを意図して行ったものです。

これまでの成果を生かしつつ、本年度からさらに充実した取り組みをしていきたいと考えています。

教育総合研究所に赴任しての抱負



いそべ としあき
 准教授 磯部 年晃

本年4月に福岡県教育庁教育振興部義務教育課から赴任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、平成27年12月21日に「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について-学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて-」(答申)が中央教育審議会から発表されました。新たな知識や技術の活用により社会の進歩や変化のスピードが速まる中、教員の資質能力向上は、我が国の最重要課題であり、九州の教員養成に係る拠点大学として本学の果たす役割は、福岡県のみならず九州各県の教育界において、益々重要性を増していると考えています。

答申に基づき、教員育成指標の策定や、新学習指導要領に対応するアクティブ・ラーニングを中心とした指導法の充実・改善を基盤とした学力向上施策の推進等、九州各県の教育界の喫緊の課題に本学が中心となって研究を推進すると共に有益な情報を提供できるよう、微力ではありますが努めていく所存です。また、本学の強みを最大限に発揮して行けるよう、教育総合研究所のミッションに努めていく所存です。

関係各位におかれましては、御指導・御鞭撻の程、よろしくお願いいたします。

高度研究者支援室／専用共用研究室

福岡教育大学における研究にかかわる業務を担当するのは、事務局の連携推進課(研究支援担当)です。執務場所として、大学の旧情報システム館2階に「高度研究者支援室」を設置し、教育総合研究所における研究プロジェクト推進に関する事務をはじめ研究支援の業務を行っています。

本学を卒業した皆さんが優秀な先生となり、また先生となった後も本学で成長できるよう、スタッフとして応援していきます!

また、研究プロジェクトの実施において、研究協力者の方の活動や打合せを行うことができる専用共用研究室のスペースも設けています。



高度研究者支援室



専用共用研究室



高度研究者支援室外観



福教大 NEWS 1 ▶ 櫻井孝俊新学長の就任記者会見を行いました

本学は、平成28年4月1日に就任した櫻井孝俊新学長のもと、平成28年度から新しい入試、教育課程、指導体制等により国民の期待に応えられる高い資質能力をもった教員の養成に努めています。

4月14日(木)に、新学長としての就任記者会見を行い、下記の抱負等を表明しました。

- 平成28年度から開始となる6年間の中期目標・中期計画により、教員養成の広域拠点の大学として、学校教育の変化や課題に対応できる資質能力をもった教員を養成するために教育研究に取り組み、9割以上の学生を教職に就けるようにし、各地域に輩出していきたい。
- このために、平成28年度から新しい入試、カリキュラムを実施していくとともに、課外活動でも英語習得院による英会話力の向上、学生全員がボランティア活動に参加するための取り組みのひとつとして、活動時間や活動場所と自己評価・他者評価の結果を基に、3段階の認定証が授与される「学生ボランティア認定システム」を導入し、ボランティア活動の促進を図っていきたい。



福教大 NEWS 2 ▶ 全学一斉の地震総合訓練を実施しました

平成28年6月2日(木)に、震度6強の地震が発生したことを想定した全学一斉の地震総合訓練を実施しました。

本訓練は今年で6回目を迎え、約1,000名の学生、教職員等が参加しました。参加者は地震発生のアナウンスと同時に身の安全の確保、避難場所への避難や点呼、避難完了の報告など、一連の訓練に緊張感を持って臨みました。

訓練終了後、宗像消防署より「将来、皆さんが教員となった時に、この訓練は必ず役立つので、今後もこのような訓練等には真剣に取り組んでもらいたい。」との講評をいただき、また、櫻井学長より「災害は、いつ、どこで起こるか分からない。今日の訓練を振り返り、有事の際に活かしてもらいたい。」との総括が述べられました。

なお、訓練全般としては回を重ねるごとに着実に訓練の成果が上がり、概ね順調に終わることができましたが、改善すべき課題も認識されており、いつ起こるか分からない災害に備えて再度検証し、今後の取り組みに活かしたいと考えています。



続々と避難場所へ集まってくる学生と教職員



消火器を使用した初期消火訓練



総括する櫻井学長(中央)

福教大 NEWS 3 ▶ 教職イベントを開催しました

福岡教育大学では、教員を目指すモチベーションや教職キャリアを高めることを目的として、第1回・第2回教職イベントを開催しました。第1回「教育大生として今やるべきこと」では、櫻井孝俊学長、永富淳一参与から、日々の授業の大切さ、大学生活で多くの経験を積み、自己成長を図ること、教員採用試験に向けての道のりなどについての講演がありました。

第2回「先輩教師を囲んで」では、本学を卒業し、現在教育現場で活躍されている3名の現職教員の方を講師にお招きし、教員生活で日頃大切にしていることや教員の魅力について講演していただきました。

学生が大学生活でやるべきことを理解し、自分の理想の教師像について考えを深める有意義なイベントになりました。

本学では、年間を通して様々な「教職イベント」の開催を計画しています。

平成28年度福岡教育大学「教職イベント」開催スケジュール及び内容

回数	開催日時	内容
1	4月7日(木) 16:15~17:45	教育大生として今やるべきこと 4年生での教員採用試験を見据え、それぞれの学年で今やるべきことを学ぶ
2	6月9日(木) 16:15~17:45	先輩教師を囲んで 教育現場から先輩教師を招聘し、「教師という仕事の魅力」について学ぶ
3	10月予定	訪問前学習会 教育現場で学ぶ(小・中学校) 学校を訪問し、児童生徒との交流や授業参観を通して学校現場の現状について学ぶ
4	11月20日(日) 13:00~	教員採用試験を終えて 教員採用試験を体験した4年生から「教員採用試験対策の心構え」について学ぶ
5	12月21日(水) 10:25~11:55	教採パネルディスカッション 教員採用試験対策の在り方について学び、教員をめざすためのモチベーションを高める
6	2月23日(木) 14:30~16:00	春休み教採学習会 教員採用試験についての本学の現状等について学び、今後に向けた心構えをもつ



第1回教職イベント



第2回教職イベント



選修小専社会

教職教育院・社会科教育講座 教授 小田 泰司



教員プロフィール
小田 泰司
(おだ やすじ)

広島大学大学院教育学研究科博士課程
修了 博士(教育学)
平成19年赴任。専門は、小学校を中心とし
た社会科教育、米国社会科教育史研究。

選修小専社会の目的

選修小専社会は、初等教員養成課程社会科選修の三年次学生を対象に、開講されています。教材の論理について初歩から学んでいく他選修生のための小専社会とは異なり、この授業では選修生を小学校社会科の授業づくりが得意な教員に育成することをめざして、より高いレベルで理論的実践的に学んでいきます。

授業での取り組み

小学校社会科は、「社会のしくみ」という普段は大人でも見えないものを、社会に生

きる人たちの姿を通して、子どもたちに見えるようにするという大切な役割をもっています。まず学習指導要領や教科書で示される単元展開の構成を参考にして、求められている児童の姿に見当をつけた上で、単元の展開や各時間の内容を検討して決定していきます。次に達成すべき目標が見えてきたら、実際に教材についてより深く理解するために、フィールドワークをしたり、関係者にインタビューをしたりして情報や事実、資料を集めます。最後にそれらを踏まえて、教材に込めるべき教科内容を中学校高校の教科書や社会諸科学の専門書か

ら見つけて決定したら、児童が見つけ出せるように展開を考えて何枚かの指導案に展開を表していきます。

授業の意義と期待

小学校教師が実際に取り組んでいる授業づくりを追体験して学んだことは、教育実習やその後の教員生活で大きな拠りどころになります。学生には社会科の得意な小学校教師として、より多くの授業づくりに取り組み、学校での社会科研修を引っ張っていく教師になってほしいと期待しています。



$$A + B = C^2$$



英語教育ゼミC

教職教育院・英語教育講座 准教授 宮迫 靖静



教員プロフィール
宮迫 靖静
(みやさこ のぶよし)

兵庫教育大学連合大学院博士課程修了
博士(学校教育学)
高等学校教諭を経て平成25年度に赴任。
専門は英語教育学。研究対象は実践研究
を含む英語教育全般。

この授業は主として3年時の英語専門の学生を対象とし、2年時の「英語教育概論」、「英語科教育研究A」に続き、英語による内容重視指導として実施しています。つまり、英語教育の理論と実践に関して、英語を使用言語として学習しています。

なぜ英語で

現在の学生は、中・高等学校で英語授業を英語で教えることとなります。小学校でも、子供達が理解する範囲で英語使用を試みるはずで、このような英語による英語授業をする予定の学生は、英語による授業を

学習者として体験すべきです。また、国際化の流れの中で、大学においては様々な科目に関する英語による授業が増えており、英語を専門とする学生が日本語で英語について語っているだけというのは不自然です。

アクティブラーニングとして

「英語教育概論」では、英語教育全体に関して英語で講義を聴き理解を深め、「英語科教育研究A」では、同様に第二言語習得研究の観点から英語教育に関する理解を深めてきました。この「英語教育ゼミC」では、これまでの理論的な学習を「指導に

どう活かしていくか」、学校現場の実態に照らして指導を考えています。

学生はペア(4組)で、*Teaching ESL/EFL Listening and Speaking*という世界基準の英語教師用専門書の一節(約3頁)を考察し、現場での指導を考慮し、スライドを使用しながら英語で発表します。発表に関して、学生と一緒に議論し、具体的な活動の体験もします。これを英語で行う要求の高い授業ですが、学生が主体的に考え、提案・体験し、議論するというのはアクティブラーニングの体現と言えます。今のところ、選択学生の反応は良好です。



いく た じゅん いち
教職教育院・教育心理学講座 生田 淳一 研究室

理論と実践の架け橋になろう

生田研究室では、「理論と実践の架け橋になろう」をモットーに、教育実践に関わりながら研究を進めています。「学習環境の開発」を活動の中心に、授業づくりや学級経営に貢献したいと考えています。最近では、アクティブラーニングをキーワードに、ワークショップ形式を活用した研修(学習意欲、QUなど)を実施し、学校教育の実践家である先生方と「主体的な学びとは何か」について考えを深めています。今後も、さまざまな方々と協同し、教室での児童・生徒の主体的な学びを追究していきたいと考えています。

活動とリフレクション

「子どもの学習意欲を高めるにはどうすればよいのか」、「満足型の学級って、どんな学級なのか」「どのような教師のかかわり方が効果的なのか」、ゼミでは学生中心のディスカッションを大切にしています。卒業研究では、実際に小学校や中学校にお伺いしてデータを収集していただくことも少なくありません。そこも生田研究室の特徴です。このとき学生は、学校の先生方からたくさんのアドバイスを直接いただくことができます。このような場面で、理論と実践を結びつけるきっかけが得られると考えています。

生田研究室の学生は、ボランティア活動やイベントの運営にも積極的に取り組んでいます。活動に際しては、「参加ではなく、参画すること」を大切にしています。「どうすれば、参加してくれる人たちが楽しめるのか」、企画の段階から自分の考えを持ち、具体的な計画を練っていきます。そして、実際にやってみます。そのような、みんなが楽しめるイベントを企画・実施し、さらに、活動をふりかえり、次の活動に生かしていく。つまり活動とリフレクションの中で、教員になったとき、社会に出たときに発揮できるマネジメント能力も高まっていくと考えています。

つながりを大切に

生田研究室では、同学年の学生との横のつながりだけでなく、卒業生も含めた先輩・後輩の縦のつながりを大切にしています。この縦・横双方のつながりの中で、たくさん話をして、刺激を受けながら、自分の活動をリフレクションしていく。その結果としてお互いの力を高めたいと考えています。卒業生には、人とのつながりを大切にして、社会に貢献していってほしいと思います。



研究室のメンバー



学生主催のイベント



野外活動



ゼミ



学生のボランティア活動

準硬式野球部

Baseball Club

福岡教育大学準硬式野球部は、現在選手24名にマネージャー5名を合わせた29名で日々活動しています。週4日～5日、主に福岡教育大学野球場にて練習を行っています。日々の練習等の甲斐あって平成27年度秋季リーグ戦3位、秋季大会出場、平成28年度春季リーグ戦2位という結果を残すことができています。これらの大会では個人賞を受賞する選手も多く、高い技術力を誇っていますが、私たちのチームの一番の特徴は、先輩後輩の仲がとても良く、常に笑い声が絶えない活気あふれるチームであるということです。

準硬式野球とは、準硬式ボールという特殊なボールを使って行う大学ならではの野球です。硬式野球経験者が多く集まっていますが、チームの中には軟式野球経験者や初心者 of 選手も所属しており、「ENJOY BASEBALL」をモットーに全員が野球を楽しんで活動しています。

準硬式野球部は、野球に本格的に取り組みたい人や、野球も楽しみたいけれど他のことも楽しみたい人、どんな方でも大歓迎です。少しでも私たちのチームに興味を持った方は是非一度福岡教育大学野球場へお越しください。いつでもお待ちしております！



初等教育教員養成課程国語選修 3年 加藤 由佳

サマーキャンプ

Summer Camp

“サマーキャンプ”は、重症心身障害児(者)を対象とする療育キャンプなどの活動に参加しているボランティアサークルです。

メイン活動である8月に2泊3日で行われるサマーキャンプのほか、5月、10月、11月に1泊2日で行われる地区キャンプや、11月、12月に行われる柿狩りやクリスマス会といった行事にボランティアとして参加しています。これらの療育キャンプは、在宅心身障害者に自宅以外での宿泊の経験及び集団生活の訓練の場を提供し、併せて専門医師等による診断、機能回復訓練及び療育相談を行い、その療育を助長し福祉の増進を図ることを目的として行われています。キャンプ中は、障害者の方と一緒に食事をしたり、入浴をしたり、学生の考えたレクリエーションを行っています。また、これらのキャンプや行事に向けて、準備期間には週1回の全体ミーティングを開いて意見を交わし、参加者の方々に楽しんでいただけるように日々活動しています。



特別支援教育教員養成課程知的障害児教育専攻 2年 坂本 匡耀



学校、教育委員会等との連携

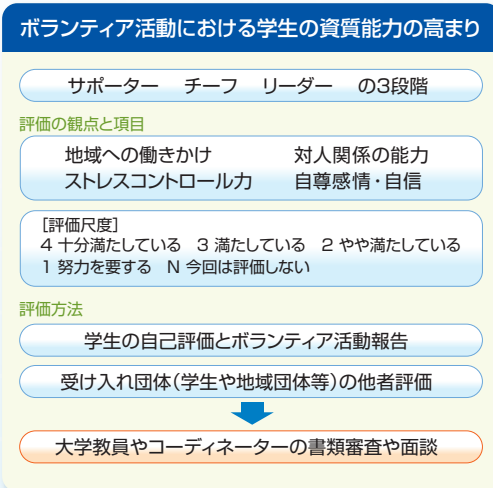
福岡教育大学では、学校、教育委員会及びコミュニティーセンター等の機関・団体と連携協力して学生ボランティア活動や連携事業・共同研究を推進しています。また、その成果を積極的に地域社会に還元しています。

連載第14回 学生の自己成長を促し、学校の地「知」の拠点化を担う教員を育成する 学生ボランティア活動の重点的な取組

本学では、学生ボランティア活動推進本部を組織し「学生ボランティア活動の推進に関する基本方針」に沿って、福岡教育大学の専門性を活かした学生ボランティア活動を教育の一環として位置づけ推進しています。学生ボランティア活動の3つの理念に基づき、「つなぐ」地域社会と大学をつなぎ、「であう」出会いや体験による学びの機会を多く与え、「つくる」明日の学校や地域社会の創造に必要な力を育成し、地域社会に貢献するとともに、学生の教育実践力の向上など様々な資質能力を涵養することに取り組んでいます。特に、福岡教育大学版COC事業の中で、平成27年度入学生（希望者）から、学生ボランティア活動認定システムを導入し、学校の地（知）の拠点化を担う教員を育成する取組を行っています。

本学の学生ボランティア活動の支援体制と現状

【学生ボランティア活動認定システムの概要】



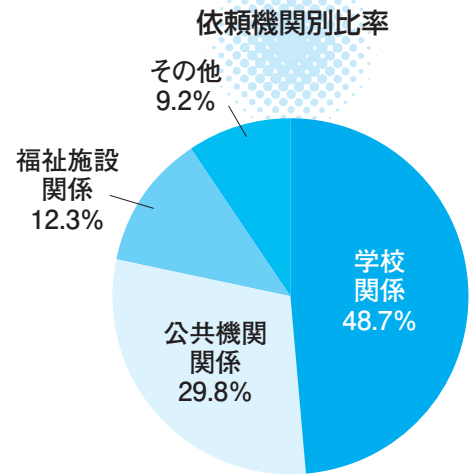
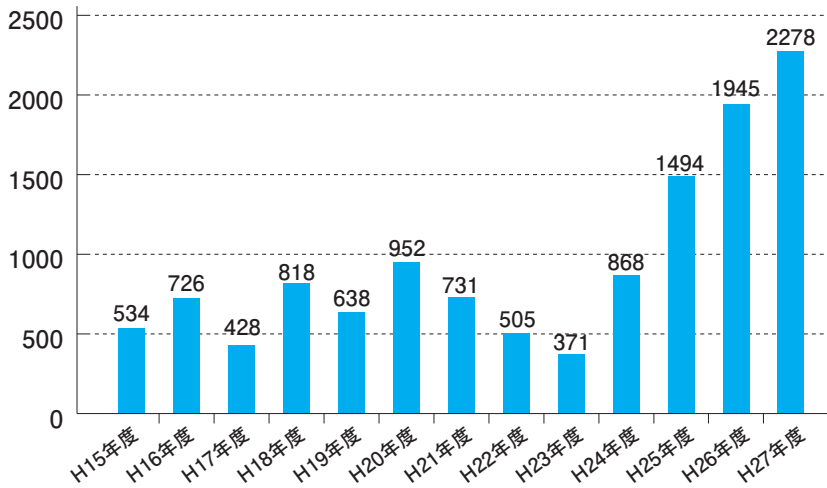
ボランティア活動認定の3段階(例)

【評価の観点】地域社会への働きかけや貢献

段階	サポーター	チーフ	リーダー
ねらう力	地域社会への関心や愛着	地域理解・地域課題のアプローチ	地域愛・地域創造
評価1	学校や地域社会のボランティア活動に主体的に参加することができる	学校や地域社会のボランティア活動のよさや課題を理解しようとする	学校や地域社会、大学のボランティア活動の運営や企画に参加・協力できる
評価尺度	4 3 2 1 N	4 3 2 1 N	4 3 2 1 N
活動時間	100時間 (のべ)	200時間 (のべ)	300時間 (のべ)

この学生ボランティア活動認定システムは、学生自らがボランティア活動を通して学校や地域と積極的に関わり、さらに高見をめざすことができるように学生の自己評価や受け入れ団体の他者評価を大切にしながら、大学・学校・地域が一体となって学生を育てていく仕組みです。大学生活の中で様々なボランティア活動を通して学生は、第1段階「サポーター」第2段階「チーフ」第3段階「リーダー」の3段階をめざします。学校や地域と積極的に関わり、上の図にある「地域への働きかけ」「対人関係能力」「ストレスコントロール力」「自尊感情・自信」等教師としての実践的指導力につながる資質や能力を高め、地域貢献活動ができる学生や将来のリーダーを育成します。その他の支援体制は、次のとおりです。インターネットを活用したボランティアサポートシステム(UTEFVSS)の運用、教員による案内等、ボランティア活動サークルによる活動、学生支援課を介してのボランティア活動で支援を行っています。昨年度は、ボランティア依頼件数や学生の参加者数が、年々増加し、約2300名の学生が参加している状況です。学生ボランティア依頼件数367件の依頼機関別比率は、右図のとおりです。

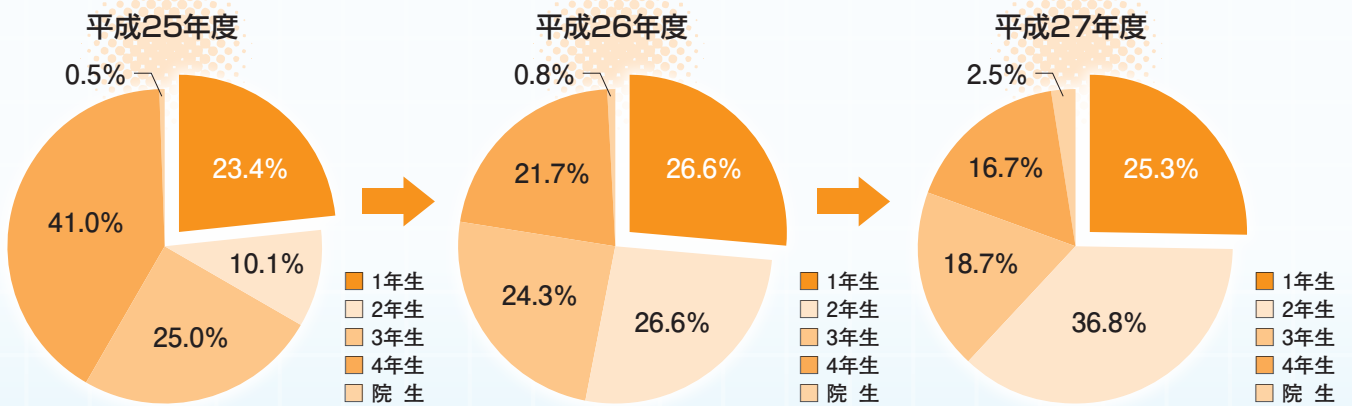
ボランティア活動に参加した学生数の変化



2 学生ボランティア活動への意識の変容と成長の姿

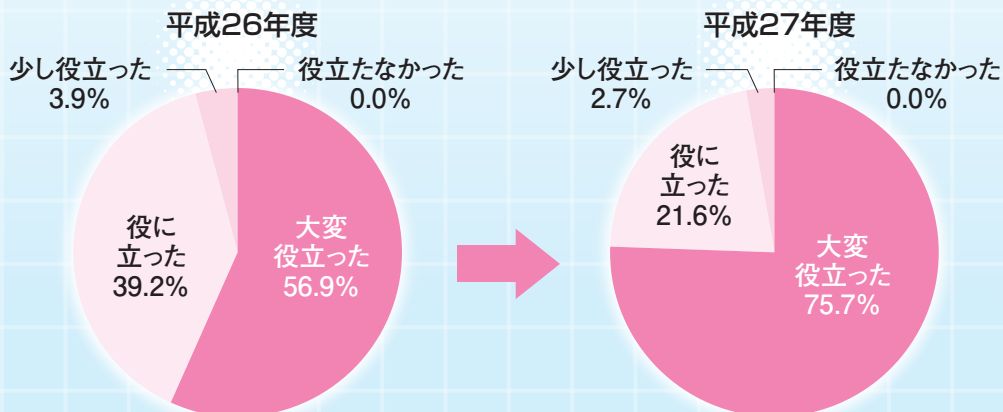
学校支援ボランティア活動や地域支援ボランティア活動に参加している学生の学年別比率の経年別の変化は、下図の通りです。1～2年生の比率が経年ごとに増加しています。フレッシュマンセミナーを通して学生ボランティア活動の意義や重要性の理解が図られたことが本学の学生ボランティア活動への意欲を高めていると考えています。平成28年度の入試改革で入学してきた新1年生の活動意欲の高さや今後の教職教育院の取組に期待をしています。また、半年や1年間を通して参加する学生の数も多くなってきました。

ボランティア活動に参加している学生の学年別比率

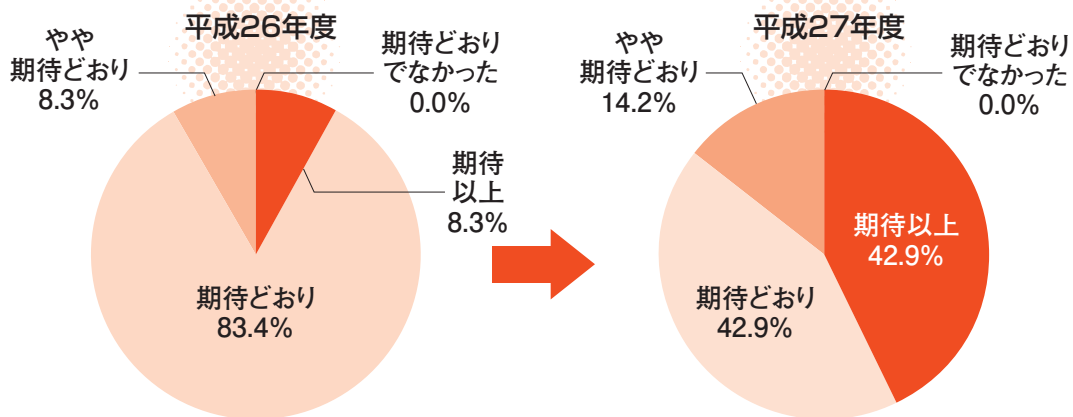


受け入れ先(学校・地域)のアンケート調査の結果と声は、下図の通りです。

① 学生ボランティア活動は、役に立ったか



② 学生の活動は、期待どおりであったか



学生の感想

○ボランティアとして学校現場を経験することで、大学での学習をもとに具体的で実践的な指導を学ぶことができた。子どもへの関わりの中での反応や喜びは、これからの大学生生活のモチベーションを上げていく機会となった。教師の仕事の良さや大変さを実感し、教師になるという思いがますます強くなった。

地域の方の声

○最初は、地域の皆さんのお手伝い程度で考えていたが、学生の皆さんが活動の趣旨を理解し、積極的で斬新な意見交換、企画立案及び実行委員会への参加、イベントの準備、閉会後の後片付け等積極的に活動をしていただきました。会議や行事が大変盛り上がり貢献してもらいました。

3 学生ボランティア活動の実際

① 学校支援ボランティア活動



② 地域支援ボランティア活動



③ 震災「東北」ボランティア活動



女川中学校教育活動支援



女川中学校教育活動支援

④ ボランティア活動報告会



学校支援ボランティアの成果発表



大学教授からの指導助言

新入生の声

(先輩に薦められた入学動機)

私は、高校の先輩から「福岡教育大学は、ボランティア制度が整っており、学校関係などのボランティア活動にいけるよ。」と薦められ入学しました。将来は、教師の道をめざすので私が特に参加したいものは、不登校の生徒にかかわることができるボランティアです。また、大学生活4年間でできるだけ多くの様々なボランティア活動をしたいと思っています。



高校の先輩(学習支援)の様子

4 これからの展望 ～福岡教育大学ブランドをめざして～

平成27年度8月から1年生を対象に、ボランティア活動認定システムを導入し試行的に実施していましたが、平成28年度は、福岡県全下で全面实施することとなりました。本年度7月末には、「サポーター」の段階として認定される学生が出てくることが期待されます。本年度11月のボランティア活動報告会の中で認定証の授賞式を計画しています。4月当初から1年生をはじめ多くの学生が学生支援課の窓口でボランティア活動の申し込みを行っています。フレッシュマンセミナーの講議後の1年生の感想の中に「先輩から福岡教育大学はボランティア活動の支援体制が大変整っていると薦められたので受験し入学しました。」という学生が複数存在するようになってきました。本学全ての学生が4年生のリーダーシップのもとに学生ボランティア活動に取り組んでいる姿、ボランティアセンターが開設され、学生相互で自主研修したり、相談し合ったりして互いを高め合っている姿が目に見えてきます。本学の全ての教職員が学校や地域と一体となって学生ボランティア活動「福岡教育大学ブランド」を具現化していく覚悟です。



授業風景

授業づくりを通して

授業の準備は、授業をする一週間以上前から始まります。まず各授業のねらいを明確にもつために、綿密に週案を立てます。本校の「分かる・できる・楽しい学習づくり」という目標をもとに、教材をつくり、資料を探して調べ、悩んだ時には諸先輩方にアドバイスをさせていただいて、授業を組み立てていきます。小学校での授業は、どの時間の学習も、自分の担任する学級で一度しか実践することはできません。だからこそ、事前にできる精一杯の準備をして、授業に臨まなければならないのだと学びました。

「感謝」と「謙虚さ」を忘れてはいけない

一年目の時、初任者指導をしてくださった先生に言われた言葉があります。それは、「感謝」「謙虚さ」でした。日々の積み重ねは当たり前のことではなく、学校にいらっしゃる様々な先生方、保護者の方、地域の方に支えていただいて、私は子どもたちと教室で学び、成長することができます。そのことに対する「感謝」の気持ちと、自分の力を過信せず、常に学び続けなければならないという「謙虚」な気持ちをもって臨むことが、いつまでも忘れてはいけない教師としての態度であると思います。

人生経験は宝です

わたしはこれまで、部活やサークルの経験をしたことがなかったこともあり、自分が教師をする上で、子どもたちにこれは自信をもって教えることができる!という気持ちをもつことができずにいました。いざ現場に出てみると、わずかながら小さい頃から実家の習字教室や兼業農家でしてきた経験を役立たせることができました。今も二年生と野菜を育てていますが、野菜の種類や育て方について、自分が育ててきた中で知っている知識を伝えつつ、楽しく学習をすることができます。大学生の内にかくさんの経験をして、子どもたちに生の経験を伝えてほしいと思います。



太宰府市立太宰府西小学校
いのうえ ゆうこ
教諭 井上 裕子さん
平成24年3月
初等教育教員養成課程
国語選修卒業





教育実習



授業風景



大学時代の中等社会専攻のメンバーと

私は平成22年度に教育学研究科教育科学専攻に入学し、平成24年度から地元の広島市で教職に就きました。今年で5年目を迎えますが、教室から教室へと駆け回り、気付いたら夕方になっている、そんな日々を過ごしています。多忙と言われるこの職業ですが、そんな中でも、子どもたちの笑顔にエネルギーをもらいながら、楽しい毎日を過ごしています。

先生に、なりたい!!

初めて教壇に立った教育実習では、本当に自分が先生としてやっていけるか、正直不安な気持ちで臨みました。もともと人前で話すことが苦手だったため、特に授業に関しては、これでもかというくらい、念を入れて準備を重ねに重ねました。途中くじけそうになることもありましたが、指導教員の先生の手厚いサポートや実習仲間の協力もあって、なんとか無事迎えた最終日の研究授業。授業で精いっぱいやりきった後に、生徒たちが「一生懸命授業をしてくれてありがとう!」「絶対先生になってね!」と笑顔で声をかけてくれたことが、私の教師を志す確かな根っこの部分になったのだと思います。

毎日が変化の連続

教師という仕事は、やっただけの成果や効果がついてくる、やりがいのある仕事です。「今回はこれができる、次はこの方法で取り組んでみよう!」と考えながら子どもと関わり合ったり授業をしたりすると、生徒もそれに応えてくれます。「先生の授業、分かりやすい!」「先生のクラスでよかった!」と言われると、ますますやる気になります。学級運営をしていく中で、最初の頃はなかなか積極的に動けなかった子が、だんだんと自信をつけながら、班長に立候補したり周りの子に「〇〇しようよ!」と積極的に声をかけられるようになった時など、子

どもの内面の成長を感じることができた時の喜びはひとしおです。確かに、数字や形に表れない仕事も多いです。特に、教師は人とかわかる仕事なので、すべてが思った通りにうまくいくわけではありません。一度うまくいった方法が、別の生徒には全く逆効果だったことも。それでも、いろんな失敗も含めて、自分が力を注いだ分だけ、目の前の子どもたちが変わっていく。そんなふうに、子どもたちが成長していく姿を間近で見ることができることが教師の仕事の一番の醍醐味だと思います。今年で5年目を迎えますが、本当に毎日が変化の連続で、新鮮という言葉がまさにぴったりです。

子どもと一緒に、先生も成長!

日々の生活の中で、生徒の思わぬ言動で、自分も気が付かなかったような新たな発見をすることがあります。中学校で成長するのは、生徒だけではなく、先生も同じです。毎日新しいことにチャレンジし続けることができ、生徒と一緒に自分も成長できる。教師という職業は、子どもとの関わり合いを通じて、常に成長し続けることができ、とても魅力的な仕事だと思います。



広島市立矢野中学校

いしどう もえこ

教諭 石堂 萌子さん

平成22年3月

中等教育教員養成課程社会科専攻卒業

平成24年3月

教育学研究科社会科教育コース卒業



成28年熊本地震について

このたびの熊本地震によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに被害に遭われた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。本学では、平成28年4月21日から5月20日までの期間、被災された方々の一日も早い復旧に向けた支援活動に役立てていただくことを目的に「熊本地震義援金」を募集し、多くの皆様にご協力いただきました。

皆様からお預かりしました義援金453,848円につきまして、6月21日(火)に日本赤十字社に寄託いたしましたことを、ご報告いたします。皆様の温かいご支援に心からお礼を申し上げます。

本学では、学生の学資を主に負担している方が被災された場合の授業料免除支援や奨学金に関する窓口相談、メンタルケア等の支援を積極的に行っています。

また、熊本地震により被災した家計支持者の居住する地域へ、一時帰省する学生のために旅費等の支援を行い、118名の学生に緊急支援を行いました。

今後の皆さまの安全を心から願うとともに一日も早い復興を心よりお祈りいたします。

また、被災地におきまして救援、医療等の活動にご尽力されている方々に深く敬意を表します。

福岡教育大学学長 櫻井 孝俊



義援金贈呈(右:松田事務局長)



救護倉庫見学の様子

表紙モデルの福教大生☆

今号の表紙は、特別支援教育教員養成課程知的障害児教育専攻4年生の猿樂知子さんにご登場いただきました。

小学校の教師を目指す猿樂さんは、1年生の頃から自閉症の方への支援を目的としたボランティアサークル「てくてくとことこ」に所属し、4年生になった現在も、時間を見つけて活動に参加しています。平成26年には、「てくてくとことこ」が、一般財団法人学生サポートセンターが募集する「平成26年度学生ボランティア団体助成事業」に採択され、猿樂さんが代表で表彰式に出席しました。

現在は所属する研究室の教員や仲間とともに、本学附属特別支援教育センターでの療育(障害のあるお子さんが社会的に自立できるように取り組む「治療と教育」)に携わり、実践力を身につけた教師を目指して充実した毎日を送っています。

「将来は、大学で学んだ特別支援教育の専門性と、ボランティア活動で培った力を生かして、相手を知ることや支え合うことの大切さを伝え、互いに思いやることのできる学級をつくりたいです。そして、子どもの心に光を灯すことのできるような教師になりたいと思っています。」と笑顔で語ってくれました。

平日は、毎日研究室の仲間と一緒に療育の打合せや準備、教員採用試験のための自学をしているという猿樂さん。キラキラした笑顔がとても素敵でした。今後のご活躍を応援しています!



さる がく とも こ
猿樂 知子さん
特別支援教育教員養成課程
知的障害児教育専攻4年



同窓会 城山会

じょうやま

平成28年度 第41回定期総会報告

4月29日(金)に第41回定期総会を八仙閣本店で開催いたしました。福岡県内28支会、長崎、佐賀、山口県3支部と発会準備中の熊本県支部代表者が参加もありました。総会に141名、懇親会には、学長をはじめ多数のご来賓のご臨席を賜り、先輩同窓会や大学役員の先生方との懇談、会員相互の交流・親睦がはかられ、支部支会づくりの糧となるひとときでした。

今後の事業予定などは城山会のホームページでご確認ください。



福岡教育大学同窓会 城山会事務局
TEL・FAX: 0940-33-2211
e-mail: jouyamakai@able.ocn.ne.jp
URL: katumi.server-shared.com

平成28-29年新役員紹介

後援会

“朝ごはんを食べよう”キャンペーンを行いました

大学、生協の協力により平成26年度から始まった“朝ごはんを食べよう”キャンペーンを、今年度は、第1回を6月8日～6月10日まで(3日間)行いました。第2回を秋頃、第3回を冬頃に予定しています。



後援会事務局
TEL・FAX: 0940-33-8070
e-mail: kouenkai@eos.ocn.ne.jp



健康科学センター

MESSAGE No.111 2016 春号

今回の内容は、「時間の流れ」、「韓国旅行記」、「05生から28生の君へ」、「仲間と思えると楽になる」、「不安や緊張がやわらぐあれこれ簡単ツール」、「学生時代を振り返って思うこと」、「新生活を始める方へ」、「入浴のすすめ」など盛りだくさんです。また表紙は初等美術選修4年の大隈南実さんのデザインです。是非手にとってご覧ください。



健康科学センターHP
<http://ww1.fukuoka-edu.ac.jp/~hokenctr/index.html>

学生広報スタッフ大募集

大学や学生情報のアイデア提供、広報誌の取材・写真撮影、ポスター・ホームページのモデル、大学ホームページのモニター、制作への参加、その他大学の広報活動全般に関わってみませんか?

詳細は担当者までお気軽にお問い合わせください。

●応募方法等

メールで、本文に以下の3項目を記載の上、応募してください。

1. 所属・学年
2. 氏名(ふりがな)
3. 連絡先(電話番号・e-mail)

受付後、こちらから連絡します。

なお、応募者多数の場合は、選考の上、結果を連絡します。

●応募先・問い合わせ先

経営政策課
TEL. 0940-35-1205
e-mail: kouhou@fukuoka-edu.ac.jp



福岡教育大学の魅力を高校生・受験生をはじめ、地域の皆さまに知ってもらうために、広報・広告活動にボランティアとして参加・協力してくれる福教大生を大募集!
みなさんの応募をお待ちしています!



Joyama 通信 vol. 36



福岡教育大学
イメージキャラクター
フッキー

福岡教育大学広報誌第36号

2016年7月22日

編集発行: 国立大学法人 福岡教育大学
経営政策課

〒811-4192 宗像市赤間文教町1-1

TEL.0940-35-1205

FAX.0940-35-1259

e-mail: kouhou@fukuoka-edu.ac.jp

ホームページ:

<http://www.fukuoka-edu.ac.jp/>



携帯電話サイト



Twitter



YouTube

編集後記

■今号の特集1では、全国初の新指導体制「教職教育院」について紹介しました。クラス担任制によるきめ細やかな就学指導、就職支援を行うことで、義務教育段階の教員養成を確実に担います。

平成28年4月に就任した櫻井学長のもと、九州の教員養成の広域拠点大学としての使命を果たすため、今後とも教職員一丸となって取り組んでまいります。

(広報編集部)

リサイクル適性 

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。